



2026 年 8 月 26 日

[C2H2410] チルゼパチド(ゼップバウンド) 評価結果の概要

1. 効能・効果(2025 年 3 月時点)

肥満症(ただし、高血圧、脂質異常症又は 2 型糖尿病のいずれかを有し、
食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、以下に該当する場合に限る。
・BMI が 27kg/m² 以上であり、2 つ以上の肥満に関連する健康障害を有する
・BMI が 35kg/m² 以上)

2. 薬価

2025 年 3 月に薬価収載され、ゼップバウンド皮下注 2.5mg、5mg、7.5mg、10mg、12.5mg、
および 15mg の薬価はそれぞれ 3,067 円、5,797 円、7,721 円、8,999 円、10,180 円およ
び 11,242 円である(2026 年 7 月時点)。本剤は原価計算方式に基づき算定され、H1 のカテゴ
リーで費用対効果評価の対象品目に指定された。

3. 費用対効果評価の分析枠組み

本製品は肥満症患者に対して使用される。費用対効果評価専門組織(i)では、チルゼパチド
(ゼップバウンド)の分析枠組みとして以下のように設定することが合意された。

分析対象集団	肥満症*患者 *高血圧、脂質異常症又は2型糖尿病のいずれかを有し、食事療法・運動療法 を行っても十分な効果が得られず、以下に該当する場合に限る。 ・BMI が 27kg/m ² 以上であり、2つ以上の肥満に関連する健康障害を有す る ・BMI が 35kg/m ² 以上
比較対照技術名	セマグルチド(ウゴービ) + 食事療法・運動療法

4. 比較技術に対する健康アウトカム指標での改善(追加的有用性)の評価

2 型糖尿病を合併していない肥満症:

製造販売業者は、2 型糖尿病を合併しない肥満症患者の場合について、MAIC と Bucher 法を用いた間接比較、および Bucher 法による間接比較を行った。その結果、チルゼパチド 10mg および 15mg のいずれにおいても、セマグルチド 2.4mg に対して有意な体重減少が認められた。

2 型糖尿病を合併している肥満症

製造販売業者は、2 型糖尿病を合併している肥満症患者の場合について、Bucher 法による間接比較を行った。その結果、チルゼパチド 10mg および 15mg のいずれにおいても、セマグルチド 2.4mg に対して有意な体重減少および HbA1c の改善が認められた。

公的分析は、2 型糖尿病を合併している場合としていない場合のそれぞれについて、製造販売業者の主張を受け入れた。

5. 費用効果分析の結果

製造販売業者が実施した分析対象集団における費用効果分析は、肥満症患者の主要な健康状態の自然歴、治療後の臨床経過をモデル化した患者レベルのシミュレーションモデルを用いて行われた。公的分析は、製造販売業者の分析にはチルゼパチドの用量設定、チルゼパチドの治療効果の推計方法、ベースラインでの 2 型糖尿病の割合、BMI カテゴリー別の QOL 値、および OSA の発生に課題があると考えて、これらの点を修正した再分析を行った。

その結果は以下に示す通りである。

対象集団	比較対照技術	追加的有用性	ICER (円/QALY)
肥満症患者	セマグルチド(ウゴービ) + 食事療法・運動療法	追加的有用性が 示されている	171,201